



業況 DI は 0.3 ポイントの上昇、卸売業が改善

～令和6年4－6月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和6年4－6月期の調査結果をご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況 DI は上昇 ～

総合の業況 DI は、前期比 0.3 ポイント上昇の▲26.0 となりました。

また、今後については3ヵ月後が現在比 2.6 ポイント低下の▲28.6、半年後が同 1.4 ポイント低下の▲27.4 ポイントとなるなど、物価高騰や人手不足などの影響により、先行きは依然として見通せない状態が続くと見込んでいます。

2. 業種別特徴 ～ 業況 DI、卸売業が改善 ～

製造業の業況 DI は前期比 1.5 ポイント上昇の▲30.1 となりました。中分類で見ると、一般機械（同 7.7 ポイント低下の▲37.2）は低下した一方で、電気機械（同 0.7 ポイント上昇の▲22.2）と輸送用機械（同 3.7 ポイント上昇の▲26.3）は上昇しました。

建設業の業況 DI は同 6.6 ポイント低下の▲9.0 となりました。

商業・サービス業の業況 DI は同 0.9 ポイント上昇の▲27.5 となりました。内訳を見ると、卸売業が同 11.1 ポイント上昇の▲23.2、小売業が同 1.1 ポイント低下の▲42.5、飲食店が同 3.1 ポイント低下の▲3.1、サービス業が同 2.1 ポイント低下の▲18.5 となり、卸売業は大幅に上昇した一方、小売業・飲食店・サービス業は低下しました。

また、3ヵ月後は製造業が現在比 0.6 ポイント低下の▲30.7、建設業が同 7.2 ポイント低下の▲16.2、商業・サービス業が同 2.8 ポイント低下の▲30.3、半年後は製造業が同 8.7 ポイント上昇の▲21.4、建設業が同 13.7 ポイント低下の▲22.7、商業・サービス業が同 5.2 ポイント低下の▲32.7 となるなど、3ヶ月後は全ての業種が現在比で低下、半年後も製造業は上昇するものの、建設業と商業・サービス業が低下を見込んでいます。

3. 規模別*特徴 ～ 業況・売上・採算 DI、中規模企業で上昇傾向 ～

中規模企業の業況 DI は前期比 3.7 ポイント上昇の▲17.8、小規模企業の DI は同 2.8 ポイント低下の▲35.0 となりました。売上 DI は中規模企業が同 4.9 ポイント上昇の▲7.2、小規模企業が同 6.4 ポイント上昇の▲24.5、採算 DI は中規模企業が同 1.3 ポイント上昇の▲24.3、小規模企業が同 0.1 ポイント上昇の▲35.9 となりました。中規模企業については、業況・売上・採算 DI のいずれも上昇しました。

4. 地区別特徴 ～ 業況 DI、5地区が低下 ～

地区別の業況 DI では前期より低下したのは5地区（川崎、平塚、相模原、厚木、足柄上・西湘）でした。特に変化の大きかったのは平塚（同 7.6 ポイント低下の▲40.0）、川崎（同 6.5 ポイント低下の▲27.1）でした。

3ヵ月後も、現在比で藤沢、厚木地区を除く6地区（横浜、川崎、横須賀、平塚、相模原、足柄上・西湘）が現在より低下すると見込んでいます。

半年後では現在比で横浜、藤沢、厚木の3地区で上昇、その他の5地区で低下を見込んでいます。

5. その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

～ 経営状況では仕入価格が悪化。「売上」は上昇。 ～

経営状況では、「仕入価格」が、総合で前期比 9.5 ポイント低下の▲71.9 となり、製造業が前期比 13.8 ポイント低下の▲66.6 となったほか、建設業は同 5.4 ポイント低下の▲71.8、商業・サービス業も同 7.9 ポイント低下の▲75.5 となるなど、いずれも低下しました。

また、「売上」は総合で前期比 5.0 ポイント上昇の▲15.4 となり、業種別では、製造業が前期比 2.3 ポイント上昇の▲22.3 となったほか、商業・サービス業は同 10.8 ポイントと大幅上昇の▲10.2 となりました。一方、建設業は同 11.3 ポイントと大幅に低下し、▲17.7 となりました。

コメントでは、「全ての食材の値上がりが酷く、特に食肉の値上がりが厳しく、商品単価の引き上げは客離れに繋がり、上げられない。利益が厳しく、経営者の給料を下げ対応している状態。」などの声が上がっていました。また、止まらない人手不足や物価高騰など、今後の見通しについて不安視する声も多く寄せられました。

◇カーボンニュートラル・脱炭素についての特別調査

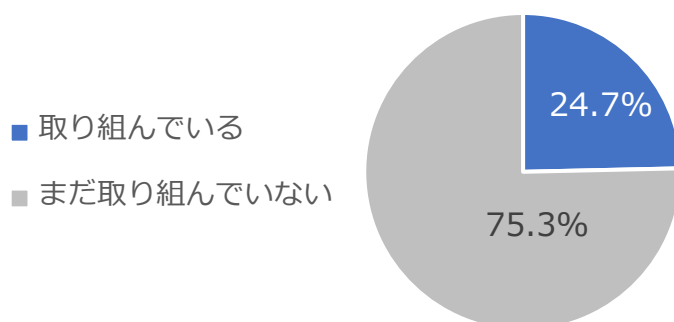
1. 全体的特徴 ～カーボンニュートラルに「まだ取り組んでいない」との回答は7割以上～

カーボンニュートラル・脱炭素に関して調査したところ、カーボンニュートラルへの取組状況では、（表1）のとおり「取り組んでいる」と回答したのは24.7%、「まだ取り組んでいない」が75.3%と、7割以上が現状では取り組んでいないことがわかりました。

また、取り組む上での課題（表2）について尋ねたところ、最も多かった回答は、「情報不足」で57.6%、次いで「資金の問題」の40.9%で、これに「人材不足」の27.1%、「その他」の7.2%が続く結果になりました。

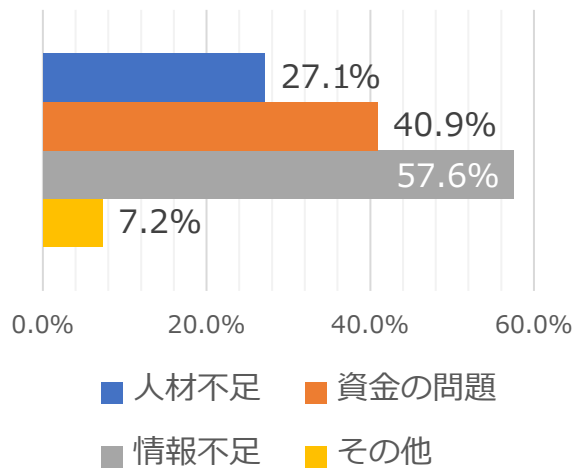
自社の排出量の把握状況（表3）については、最も多かったのは「把握していない」の67.1%となり、「一部把握している」は25.0%、「把握している」は7.9%となりました。

（表1）カーボンニュートラルへの取組状況（全体）

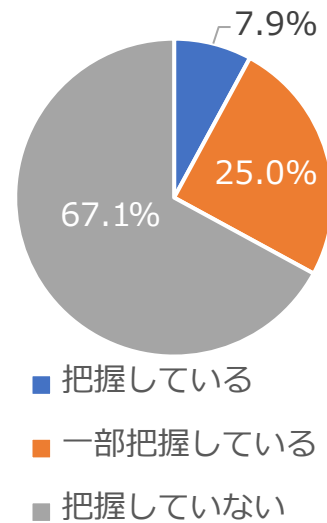


(表2) 取り組むにあたっての課題

(全体) ※複数回答



(表3) 自社の排出量 (全体)

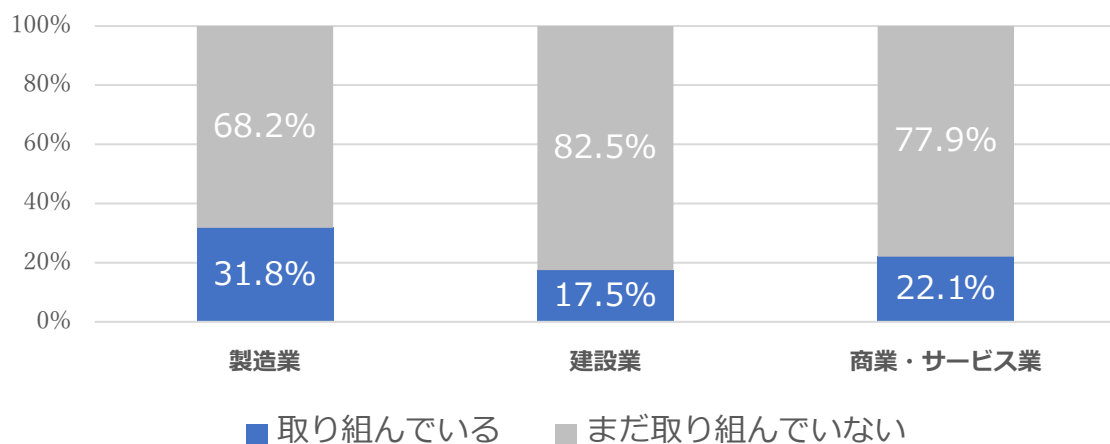


2. 業種別特徴 ～取り組んでいる割合は製造業が最も多い。全ての業種で「情報不足」が課題～
業種別では、取組状況 (表4) について「取り組んでいる」と回答した割合が最も多かったのは製造業で31.8%、次いで商業・サービス業の22.1%、建設業の17.5%でした。

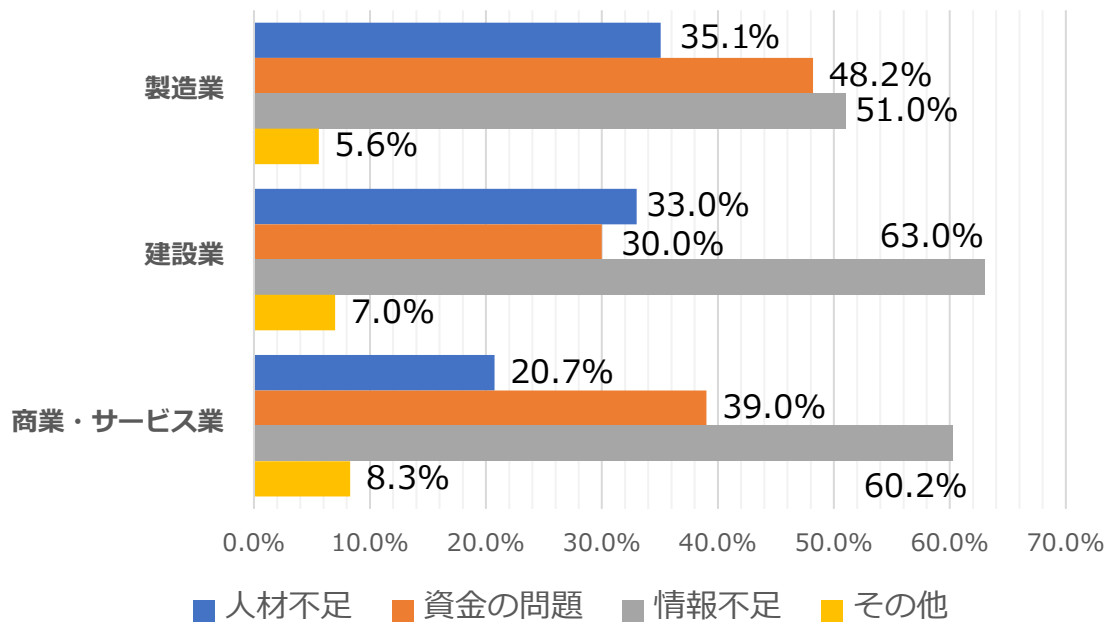
取り組むにあたっての課題 (表5) は、全ての業種において「情報不足」が最も多く、特に建設業、商業・サービス業では6割以上が「情報不足」を課題としました。

また、自社の排出量の把握状況 (表6) について、「把握している」と回答した割合が最も多かったのは製造業で11.6%、次いで商業・サービス業の6.2%、建設業が5.8%でした。

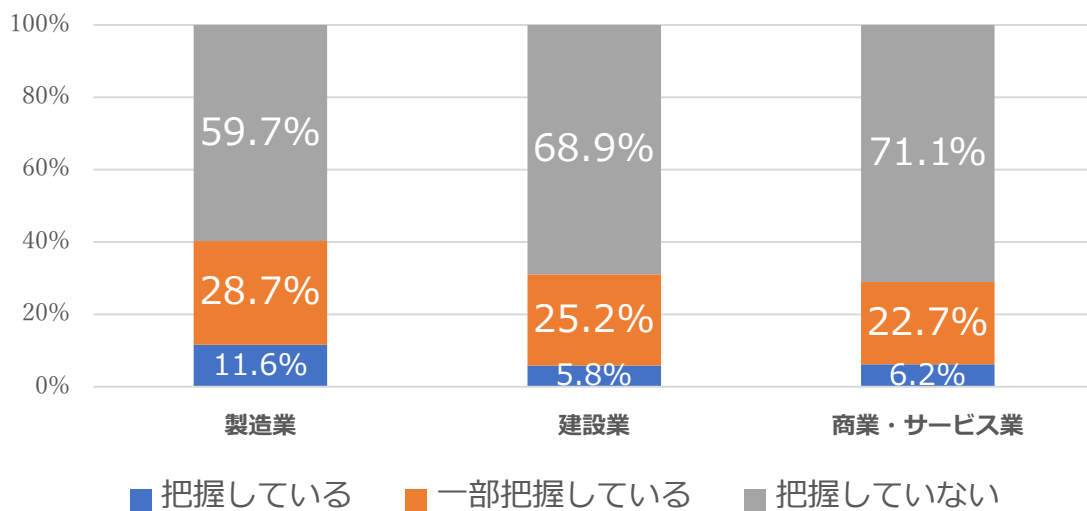
(表4) カーボンニュートラルへの取組状況 (業種別)



(表5) 取り組むにあたっての課題（業種別）※複数回答



(表6) 自社の排出量の把握状況（業種別）



【調査要領】

調査時期：令和6年5月 調査対象：県内中小企業 2,000 社 回答数：1,026 社

* 中規模／小規模

製造業・建設業：300 人以下／20 人以下、商業・サービス業：100 人（小売業は 50 人）以下／5 人以下

▼本件に関するお問い合わせ先

(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)

(Kanagawa Industrial Promotion Center)

総務部企画広報課 木村

TEL 045-633-5101 FAX 045-633-501

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail kikaku@kipc.or.jp

令和6年4-6月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは0.3ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和6年4-6月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和6年5月
 - ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
 - ・回答数（率）：1,026社（51.3%） ※詳細は下記の通り
 - ・調査方法：調査対象へ郵送
 - ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析
- ※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	356	64.7%
建設業	250	135	54.0%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	535	44.6%
合計	2,000	1,026	51.3%

2. 調査結果

（1）総合

	令和5年		令和6年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲25.6	▲25.3	▲26.3	▲26.0	▲28.6	▲27.4
売上DI	▲14.1	▲6.8	▲20.4	▲15.4	—	—
採算DI	▲29.7	▲25.5	▲30.2	▲29.8	—	—

総合の業況DIは、前期比0.3ポイント上昇の▲26.0となった。

経営状況では、売上DIは前期比5.0ポイント上昇の▲15.4、また、採算DIは同0.4ポイント上昇の▲29.8となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比2.6ポイント低下の▲28.6、半年後は同1.4ポイント低下の▲27.4を見込んでいます。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和5年		令和6年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲27.1	▲24.9	▲31.6	▲30.1	▲30.7	▲21.4
売上DI	▲15.0	▲8.5	▲24.6	▲22.3	—	—
採算DI	▲27.6	▲21.9	▲28.9	▲32.6	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比1.5ポイント上昇の▲30.1となった。

経営状況では、売上DIは、前期比2.3ポイント上昇の▲22.3、採算DIは同3.7ポイント低下の▲32.6となった。

「コロナ禍の影響と半導体不足の余波で、工期が長期化しており、人件費がかかる傾向が見受けられます。」「設備投資も控えて、物価高支援手当や基本給ベースUPを行っている。仕事のボリュームは減少してしまっているが、人員の確保を重視した。受注単価は少しずつ風向きが変わりつつあり、交渉のテーブルに客先がついてくれるようになった。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.6ポイント低下の▲30.7、半年後は同8.7ポイント上昇の▲21.4を見込んでおり、「コロナの影響がやっと抜けたか、という感覚があります。少しずつ受注も上向いていますが、諸物価高騰、円安など、今後の仕入単価への上乗せ、その分の利益減等、今後注視するところです。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和5年		令和6年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
一般機械	▲25.6	▲18.5	▲29.5	▲37.2	▲34.0	▲22.3
電気機械	▲37.8	▲26.5	▲22.9	▲22.2	▲27.3	▲16.9
輸送用機械	▲14.5	▲18.2	▲30.0	▲26.3	▲26.8	▲20.0
その他	▲26.8	▲31.7	▲39.7	▲31.5	▲32.2	▲24.2

中分類で見ると、一般機械は前期比7.7ポイント低下の▲37.2、電気機械は同0.7ポイント上昇の▲22.2、輸送用機械は同3.7ポイント上昇の▲26.3となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比3.2ポイント上昇の▲34.0、電気機械が同5.1ポイント低下の▲27.3、輸送用機械は同0.5ポイント低下の▲26.8、半年後は一般機械が同14.9ポイント上昇の▲22.3、電気機械が同5.3ポイント上昇の▲16.9、輸送用機械は同6.3ポイント上昇の▲20.0を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和5年		令和6年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲8.3	▲0.8	▲2.4	▲9.0	▲16.2	▲22.7
売上DI	▲16.7	3.3	▲6.4	▲17.7	—	—
採算DI	▲19.2	▲18.3	▲26.4	▲25.2	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比6.6ポイント低下の▲9.0となった。

経営状況では、売上DIは前期比11.3ポイント低下の▲17.7、採算DIは同1.2ポイント上昇の▲25.2となった。

「前期1月～3月、大赤字。4月～6月やっと回復の兆し。人手不足、若手不足、事業継続が課題。」「人手不足が目立ってきた。今後の受注活動に影響大である。残業規制による工事進行度が遅れる事が心配である。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比7.2ポイント低下の▲16.2、半年後は同13.7ポイント低下の▲22.7を見込んでおり、「6月以降の引き合いがない。見積り件数も例年より減っている。価格上昇分が適正に価格転嫁できていないので、利益減。適正価格にすると、受注に結び付かない。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和5年		令和6年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲28.4	▲31.0	▲28.4	▲27.5	▲30.3	▲32.7
売上DI	▲13.0	▲7.9	▲21.0	▲10.2	—	—
採算DI	▲33.5	▲29.4	▲32.0	▲29.1	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比0.9ポイント上昇の▲27.5となった。

経営状況では、売上DIは前期比10.8ポイント上昇の▲10.2、採算DIは同2.9ポイント上昇の▲29.1となった。「コロナの不況から脱し、昔のお客様が戻ってきて、客数が安定して増えてきています。」「インバウンドと円安の影響のためか、外国人の方が多く見受けられます。日本人にとっては、少々単価の張るお料理も「おいしい!!」「安い!!」（お国言葉）と言いながら、召し上がっていかれます。」「この3か月、売上は良くなっている。学生の修学旅行の復活、一般客の単価が高くなったのが要因と思われる。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比2.8ポイント低下の▲30.3、半年後は同5.2ポイント低下の▲32.7を見込んでいる。「顧客の内製化が多くなり、業務が発注されない。」「人員不足が表面化し、1人1人の社員の負担が増えている。特に高齢の社員は体力的に厳しい様で、これから気温がどんどん上がっていく事を考えると、心配である。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和5年		令和6年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
卸売業	▲26.1	▲32.0	▲34.3	▲23.2	▲32.4	▲37.4
小売業	▲40.8	▲43.0	▲41.4	▲42.5	▲44.3	▲46.6
飲食店	▲19.4	▲9.2	0.0	▲3.1	▲3.1	▲4.6
サービス業	▲14.3	▲21.2	▲16.4	▲18.5	▲20.0	▲20.9

業種別では、卸売業は前期比11.1ポイント上昇の▲23.2、小売業は同1.1ポイント低下の▲42.5、飲食店は同3.1ポイント低下の▲3.1、サービス業は同2.1ポイント低下の▲18.5となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比9.2ポイント低下の▲32.4、小売業は同1.8ポイント低下の▲44.3、飲食店は今期と同じ▲3.1、サービス業は同1.5ポイント低下の▲20.0、半年後では卸売業が同14.2ポイント低下の▲37.4、小売業は同4.1ポイント低下の▲46.6、飲食店は同1.5ポイント低下の▲4.6、サービス業は同2.4ポイント低下の▲20.9を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和5年		令和6年			
		7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
中規模	業況DI	▲21.1	▲20.0	▲21.5	▲17.8	▲23.0	▲20.4
	売上DI	▲8.3	4.5	▲12.1	▲7.2	—	—
	採算DI	▲28.7	▲18.5	▲25.6	▲24.3	—	—
小規模	業況DI	▲30.9	▲31.3	▲32.2	▲35.0	▲34.9	▲35.3
	売上DI	▲21.2	▲19.7	▲30.9	▲24.5	—	—
	採算DI	▲31.0	▲33.5	▲36.0	▲35.9	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比3.7ポイント上昇の▲17.8、小規模企業は同2.8ポイント低下の▲35.0となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比4.9ポイント上昇の▲7.2、採算DIが同1.3ポイント上昇の▲24.3、小規模企業は売上DIが同6.4ポイント上昇の▲24.5、採算DIが同0.1ポイント上昇の▲35.9となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比5.2ポイント低下の▲23.0、半年後が同2.6ポイント低下の▲20.4、小規模企業は3か月後が同0.1ポイント上昇の▲34.9、半年後が同0.3ポイント低下の▲35.3を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和5年		令和6年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
横浜	▲33.6	▲27.7	▲29.6	▲29.1	▲32.1	▲28.2
川崎	▲27.4	▲25.2	▲20.6	▲27.1	▲33.9	▲30.6
横須賀	▲16.2	▲25.5	▲27.8	▲15.2	▲20.9	▲30.8
平塚	▲27.7	▲20.8	▲32.4	▲40.0	▲40.2	▲41.1
藤沢	▲11.9	▲33.0	▲31.4	▲22.6	▲22.6	▲20.8
相模原	▲25.8	▲31.6	▲26.9	▲29.4	▲30.3	▲30.3
厚木	▲25.2	▲23.1	▲23.8	▲24.8	▲19.8	▲17.8
足柄上・西湘	▲23.4	▲12.4	▲13.7	▲13.8	▲22.4	▲19.8

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比0.5ポイント上昇の▲29.1）、川崎地区（同6.5ポイント低下の▲27.1）、横須賀地区（同12.6ポイント上昇の▲15.2）、平塚地区（同7.6ポイント低下の▲40.0）、藤沢地区（同8.8ポイント上昇の▲22.6）、相模原地区（同2.5ポイント低下の▲29.4）、厚木地区（同1.0ポイント低下の▲24.8）、足柄上・西湘地区（同0.1ポイント低下の▲13.8）となり3地区で上昇し、5地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比3.0ポイント低下の▲32.1）、川崎地区（同6.8ポイント低下の▲33.9）、横須賀地区（同5.7ポイント低下の▲20.9）、平塚地区（同0.2ポイント低下の▲40.2）、藤沢地区（今期と同じ▲22.6）、相模原地区（同0.9ポイント低下の▲30.3）、厚木地区（同5.0ポイント上昇の▲19.8）、足柄上・西湘地区（同8.6ポイント低下の▲22.4）となり1地区で上昇し、1地区で今期と同じ、6地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比0.9ポイント上昇の▲28.2）、川崎地区（同3.5ポイント低下の▲30.6）、横須賀地区（同15.6ポイント低下の▲30.8）、平塚地区（同1.1ポイント低下の▲41.1）、藤沢地区（同1.8ポイント上昇の▲20.8）、相模原地区（同0.9ポイント低下の▲30.3）、厚木地区（同7.0ポイント上昇の▲17.8）、足柄上・西湘地区（同6.0ポイント低下の▲19.8）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 木村

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和6年4月～6月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		356	135	112	221	67	135	535	1,026
業況判断	現在の業況	▲30.1	▲9.0	▲23.2	▲42.5	▲3.1	▲18.5	▲27.5	▲26.0
	3ヶ月後の業況	▲30.7	▲16.2	▲32.4	▲44.3	▲3.1	▲20.0	▲30.3	▲28.6
	半年後の業況	▲21.4	▲22.7	▲37.4	▲46.6	▲4.6	▲20.9	▲32.7	▲27.4
経営状況	売上	▲22.3	▲17.7	▲6.3	▲24.1	22.7	▲7.4	▲10.2	▲15.4
	採算	▲32.6	▲25.2	▲27.0	▲40.7	▲16.4	▲18.5	▲29.1	▲29.8
	引き合い／客数	▲18.4	▲5.3	▲17.3	▲38.8	9.0	▲11.1	▲21.1	▲18.1
	単価	4.9	15.4	9.1	▲20.9	11.9	6.8	▲3.4	1.9
	仕入価格	▲66.6	▲71.8	▲76.6	▲77.1	▲82.1	▲68.7	▲75.5	▲71.9
	資金繰り	▲26.6	▲13.0	▲18.0	▲29.3	▲23.9	▲22.2	▲24.4	▲23.7
	残業	▲21.4	▲26.2	▲18.9	▲12.8	▲11.9	▲10.5	▲13.4	▲17.9
	設備稼働	▲20.3	▲11.0	—	—	—	—	—	▲17.9
前期経営実績	売上水準	▲24.6	5.3	▲18.0	▲35.2	▲4.5	▲12.7	▲22.0	▲19.3
	利益水準	▲5.2	17.6	6.3	▲20.9	0.0	5.3	▲5.9	▲2.6
	在庫	9.9	▲1.6	13.1	4.2	1.5	▲5.7	3.3	5.0
	投資	▲8.6	▲0.8	▲12.8	▲20.3	▲1.5	▲8.0	▲13.3	▲10.1
	雇用状況	▲20.1	▲50.0	▲18.2	▲19.2	▲36.4	▲37.9	▲26.0	▲27.0

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (令和6年1月～3月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		343	125	108	223	68	135	534	1,002
業況判断	現在の業況	▲31.6	▲2.4	▲34.3	▲41.4	0.0	▲16.4	▲28.4	▲26.3
	3ヶ月後の業況	▲25.6	▲10.5	▲34.0	▲38.9	0.0	▲19.8	▲28.1	▲25.0
	半年後の業況	▲19.0	▲17.9	▲24.8	▲38.6	0.0	▲20.6	▲26.4	▲22.8
経営状況	売上	▲24.6	▲6.4	▲25.9	▲30.2	4.4	▲14.8	▲21.0	▲20.4
	採算	▲28.9	▲26.4	▲27.8	▲41.0	▲22.4	▲25.4	▲32.0	▲30.2
	引き合い／客数	▲15.2	▲2.4	▲16.7	▲40.5	4.5	▲14.4	▲23.5	▲18.0
	単価	3.5	16.0	2.8	▲20.9	9.1	3.0	▲6.3	▲0.1
	仕入価格	▲52.8	▲66.4	▲67.6	▲68.3	▲85.1	▲57.4	▲67.6	▲62.4
	資金繰り	▲24.4	▲12.0	▲22.4	▲29.1	▲25.8	▲21.6	▲25.4	▲23.4
	残業	▲17.8	▲6.5	▲21.3	▲12.0	▲10.6	▲17.6	▲15.2	▲15.0
	設備稼働	▲17.6	▲5.0	—	—	—	—	—	▲14.3
前期経営実績	売上水準	▲17.3	2.4	▲13.9	▲27.4	17.6	▲12.7	▲15.2	▲13.7
	利益水準	0.3	6.5	14.8	▲16.9	▲1.5	2.2	▲3.6	▲1.0
	在庫	11.3	▲0.9	15.0	8.8	▲2.9	▲8.9	4.3	6.1
	投資	▲6.2	▲2.5	▲12.1	▲15.3	▲8.8	▲7.9	▲12.0	▲8.8
	雇用状況	▲25.1	▲46.3	▲24.1	▲20.5	▲40.3	▲38.6	▲28.4	▲29.5

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		190	166	63	72	288	247	541	485
業 況 判 断	現在の業況	▲23.7	▲37.3	▲1.6	▲15.3	▲17.5	▲39.2	▲17.8	▲35.0
	3ヶ月後の業況	▲29.2	▲32.5	▲11.7	▲20.0	▲21.4	▲40.9	▲23.0	▲34.9
	半年後の業況	▲15.7	▲28.0	▲21.7	▲23.5	▲23.3	▲43.8	▲20.4	▲35.3
経 営 状 況	売上	▲10.8	▲35.4	▲6.8	▲26.8	▲4.9	▲16.5	▲7.2	▲24.5
	採算	▲26.5	▲39.4	▲15.0	▲33.8	▲24.8	▲34.2	▲24.3	▲35.9
	引き合い／客数	▲9.8	▲28.0	▲6.7	▲4.2	▲14.1	▲29.2	▲11.8	▲25.1
	単価	9.3	0.0	16.7	14.3	1.8	▲9.5	6.1	▲2.7
	仕入価格	▲64.9	▲68.5	▲70.0	▲73.2	▲71.7	▲80.0	▲69.1	▲75.0
	資金繰り	▲17.3	▲37.0	▲5.0	▲19.7	▲18.6	▲31.3	▲16.6	▲31.5
	残業	▲18.4	▲24.8	▲30.0	▲22.9	▲10.9	▲16.4	▲15.7	▲20.3
	設備稼働	▲19.5	▲21.3	▲8.3	▲13.4	—	—	▲16.7	▲19.0
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲18.4	▲31.5	1.7	8.5	▲14.4	▲30.9	▲14.0	▲25.3
	利益水準	5.9	▲17.7	28.3	8.5	6.3	▲20.3	8.7	▲15.1
	在庫	13.7	5.6	▲5.1	1.6	5.5	0.9	7.2	2.6
	投資	▲6.5	▲11.1	3.3	▲4.5	▲9.4	▲17.8	▲6.9	▲13.6
	雇用状況	▲24.9	▲14.6	▲55.0	▲45.7	▲33.7	▲16.7	▲33.0	▲20.3

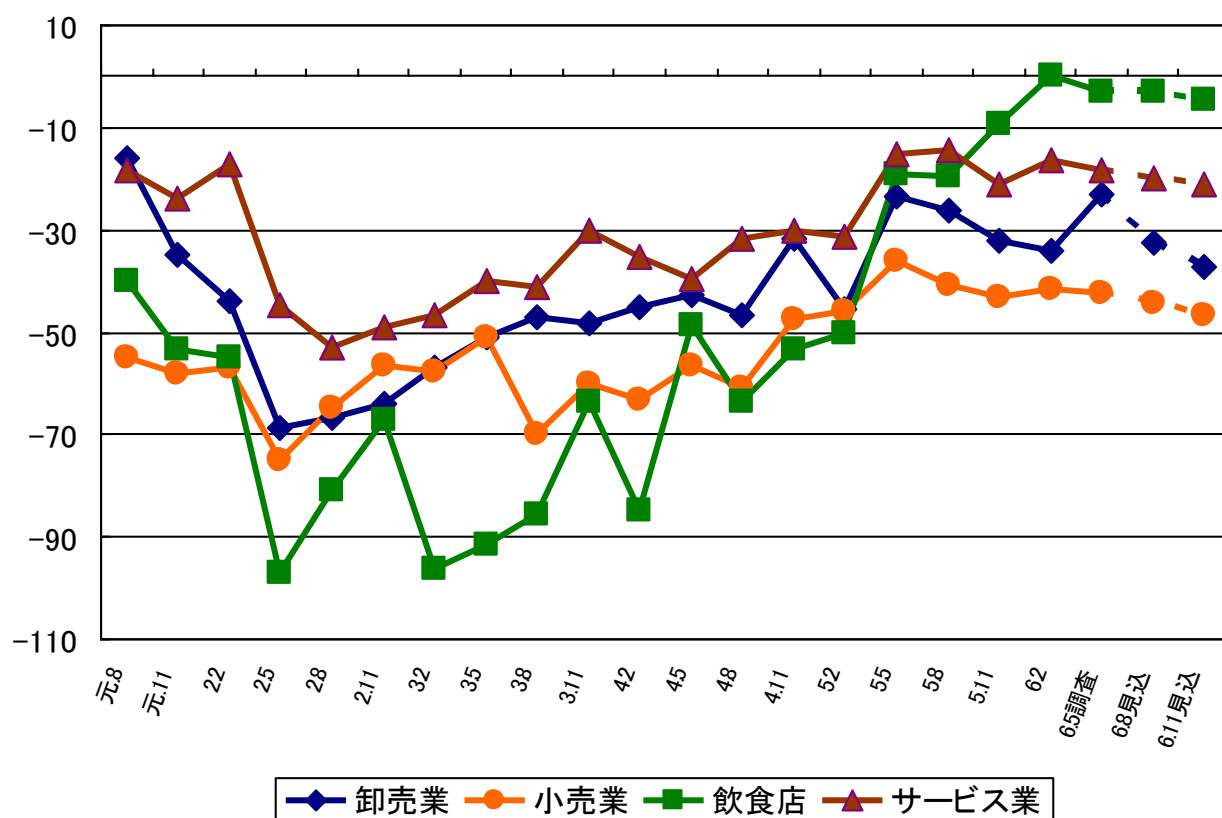
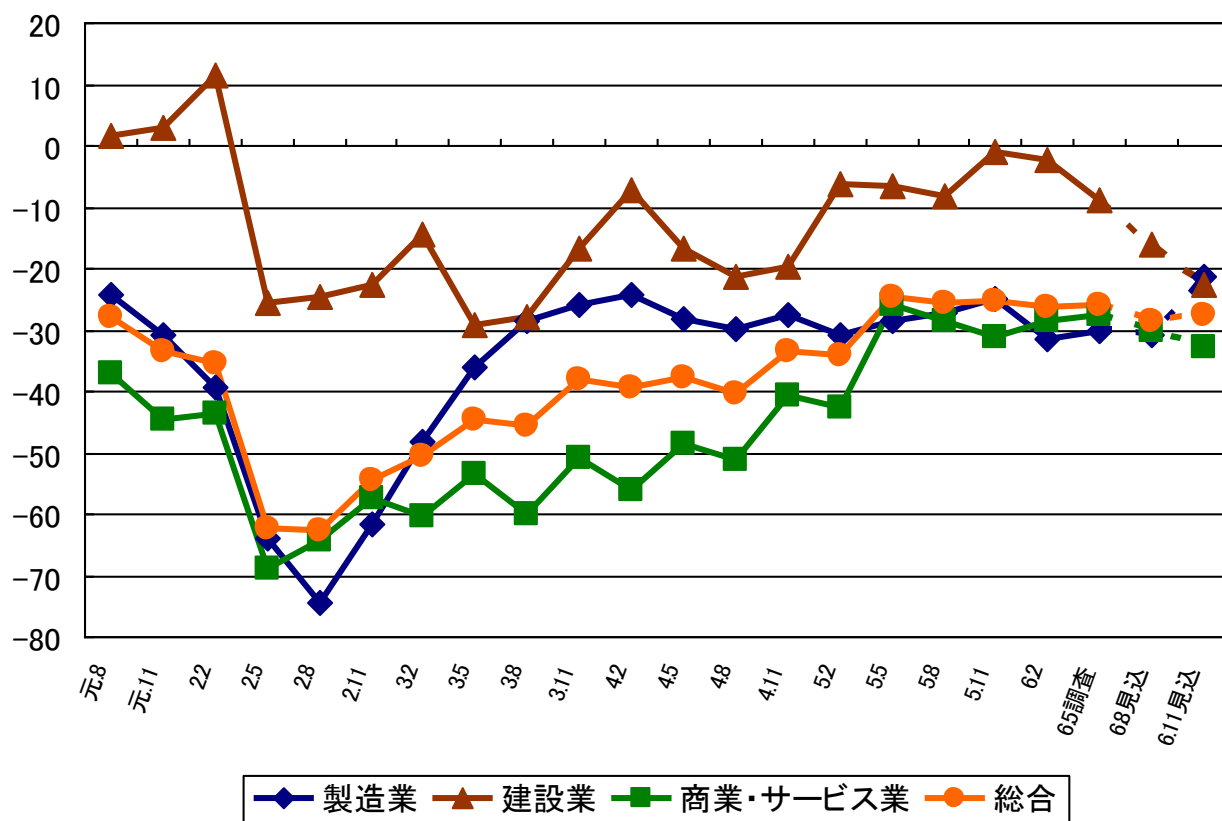
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		279	134	94	100	107	102	101	109	1,026
業 況 判 断	現在の業況	▲29.1	▲27.1	▲15.2	▲40.0	▲22.6	▲29.4	▲24.8	▲13.8	▲26.0
	3ヶ月後の業況	▲32.1	▲33.9	▲20.9	▲40.2	▲22.6	▲30.3	▲19.8	▲22.4	▲28.6
	半年後の業況	▲28.2	▲30.6	▲30.8	▲41.1	▲20.8	▲30.3	▲17.8	▲19.8	▲27.4
経 営 状 況	売上	▲21.2	▲24.2	6.5	▲23.2	▲7.5	▲25.0	▲19.8	3.8	▲15.4
	採算	▲35.3	▲31.3	▲7.6	▲32.0	▲33.6	▲27.0	▲36.6	▲23.4	▲29.8
	引き合い／客数	▲17.8	▲24.2	▲21.7	▲21.4	▲10.3	▲23.7	▲18.8	▲7.5	▲18.1
	単価	▲3.7	7.1	16.3	▲5.1	5.7	▲1.0	2.0	2.9	1.9
	仕入価格	▲67.6	▲71.7	▲67.0	▲77.0	▲81.3	▲68.0	▲73.0	▲75.7	▲71.9
	資金繰り	▲25.1	▲23.4	▲15.2	▲31.3	▲18.7	▲24.0	▲19.8	▲29.0	▲23.7
	残業	▲15.8	▲18.9	▲15.2	▲25.5	▲15.9	▲21.2	▲26.3	▲8.4	▲17.9
	設備稼働	▲18.7	▲17.7	▲10.3	▲28.9	▲18.4	▲16.4	▲15.8	▲15.2	▲17.9
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲20.4	▲13.3	▲19.6	▲28.0	▲17.8	▲29.0	▲15.8	▲11.2	▲19.3
	利益水準	▲1.5	3.1	▲9.8	▲10.0	▲3.7	▲5.1	5.0	▲2.8	▲2.6
	在庫	4.7	4.0	2.2	6.1	5.8	5.1	5.1	7.5	5.0
	投資	▲7.7	▲11.2	▲3.3	▲19.2	▲16.8	▲10.3	▲6.1	▲8.4	▲10.1
	雇用状況	▲27.6	▲33.9	▲33.0	▲25.3	▲34.0	▲21.4	▲24.2	▲15.0	▲27.0

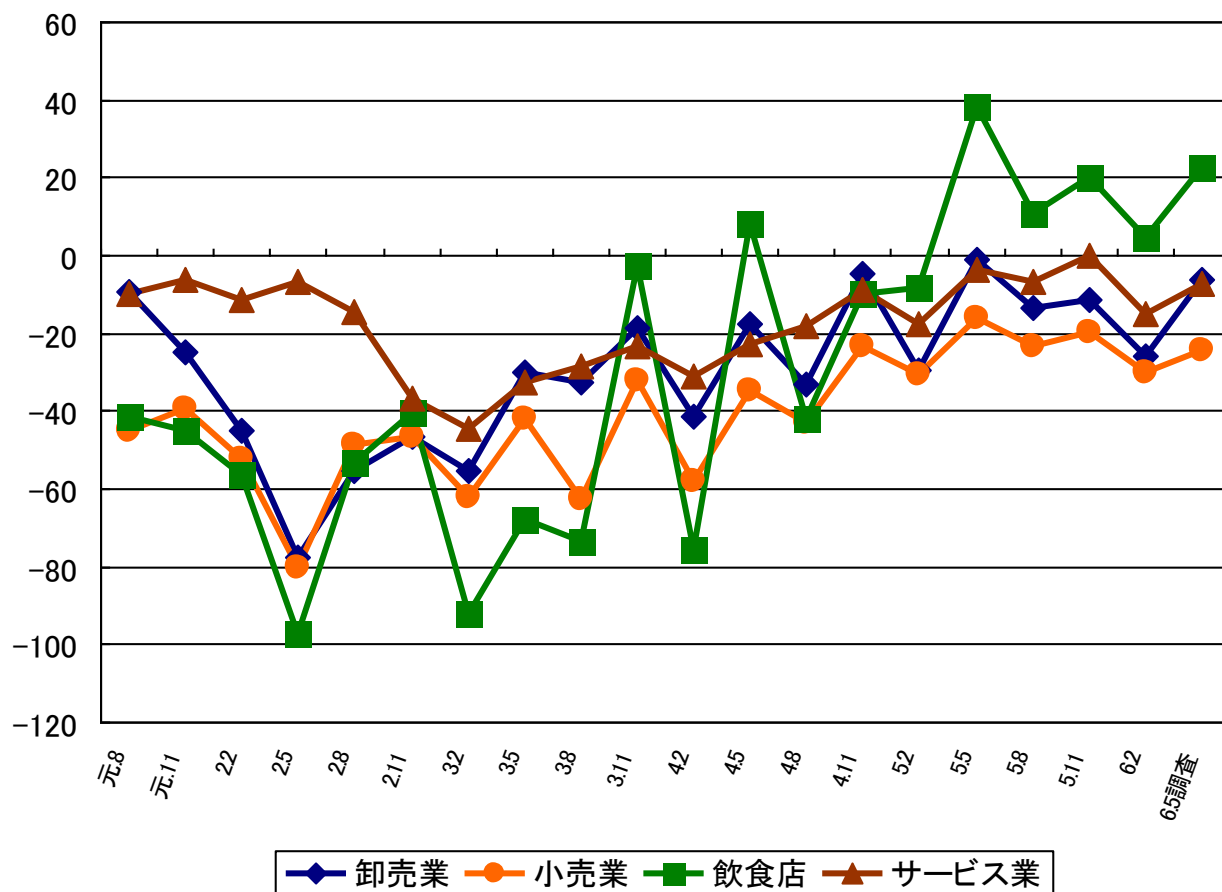
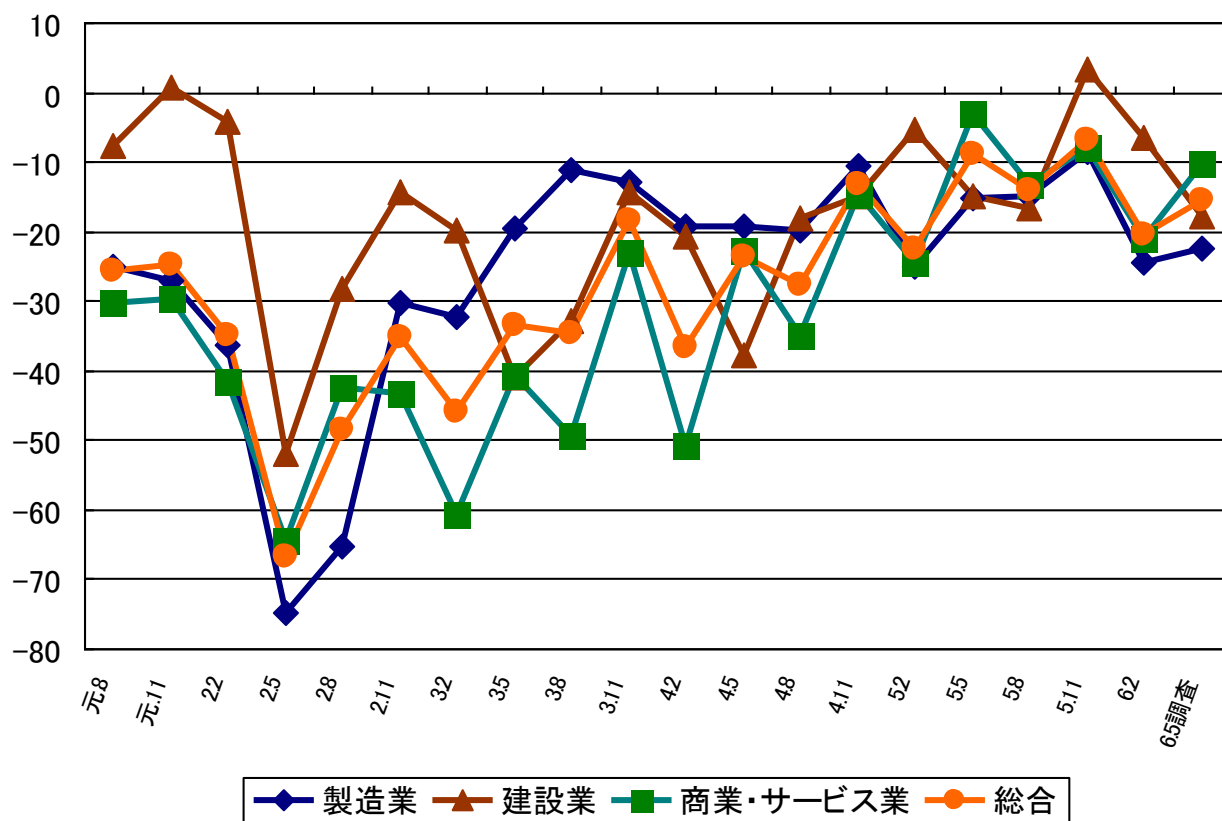
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		94	81	57	124	356
業 況 判 断	現在の業況	▲37.2	▲22.2	▲26.3	▲31.5	▲30.1
	3ヶ月後の業況	▲34.0	▲27.3	▲26.8	▲32.2	▲30.7
	半年後の業況	▲22.3	▲16.9	▲20.0	▲24.2	▲21.4
経 営 状 況	売上	▲30.9	▲12.8	▲12.5	▲26.4	▲22.3
	採算	▲35.1	▲26.9	▲39.3	▲31.1	▲32.6
	引き合い／客数	▲24.5	▲16.9	▲12.5	▲17.4	▲18.4
	単価	9.7	5.2	7.3	0.0	4.9
	仕入価格	▲61.7	▲70.5	▲64.3	▲68.9	▲66.6
	資金繰り	▲28.7	▲20.5	▲26.8	▲28.7	▲26.6
	残業	▲19.1	▲15.4	▲23.2	▲26.2	▲21.4
	設備稼働	▲23.4	▲14.1	▲21.8	▲21.3	▲20.3
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲30.9	▲7.7	▲33.9	▲26.2	▲24.6
	利益水準	▲6.5	11.5	▲16.1	▲9.8	▲5.2
	在庫	8.8	12.8	10.9	8.3	9.9
	投資	▲5.4	▲6.4	▲13.0	▲10.7	▲8.6
	雇用状況	▲31.2	▲7.7	▲25.0	▲17.2	▲20.1

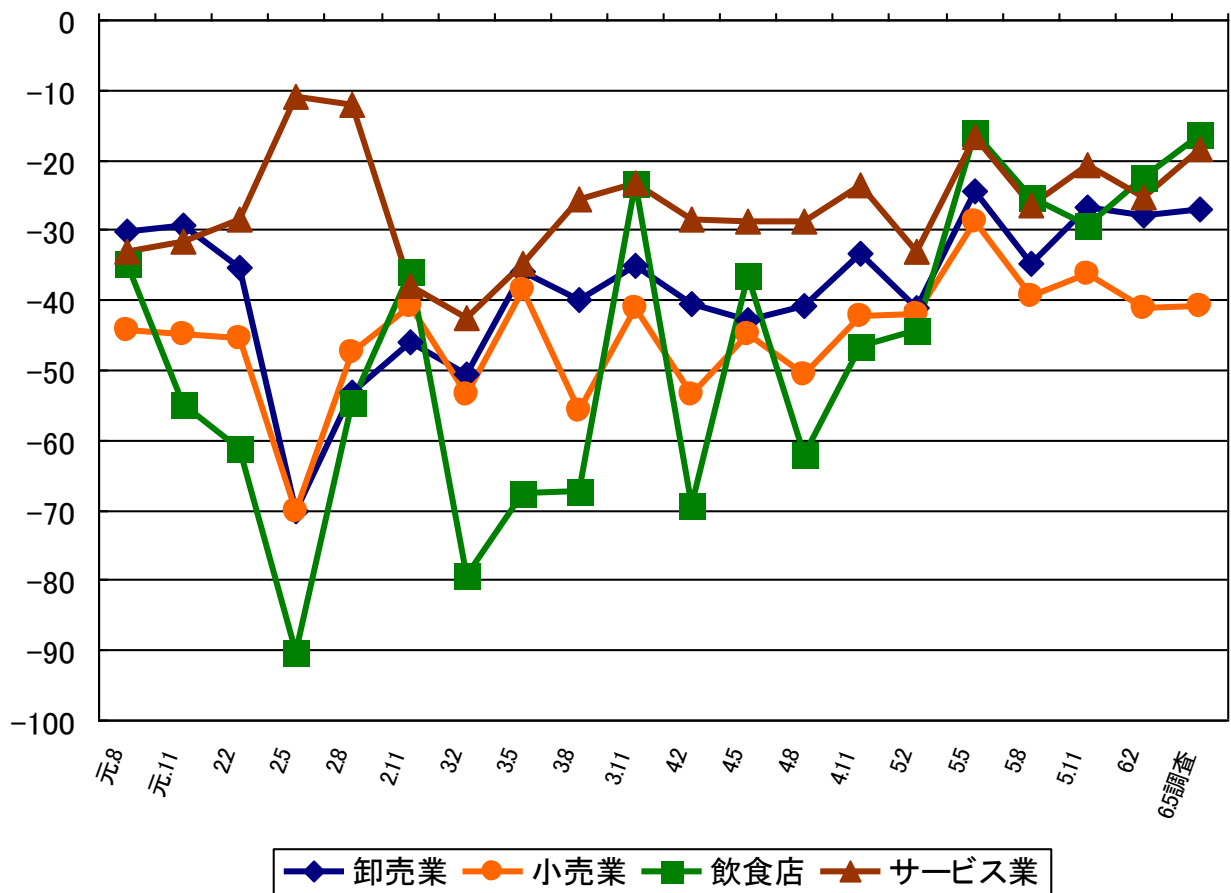
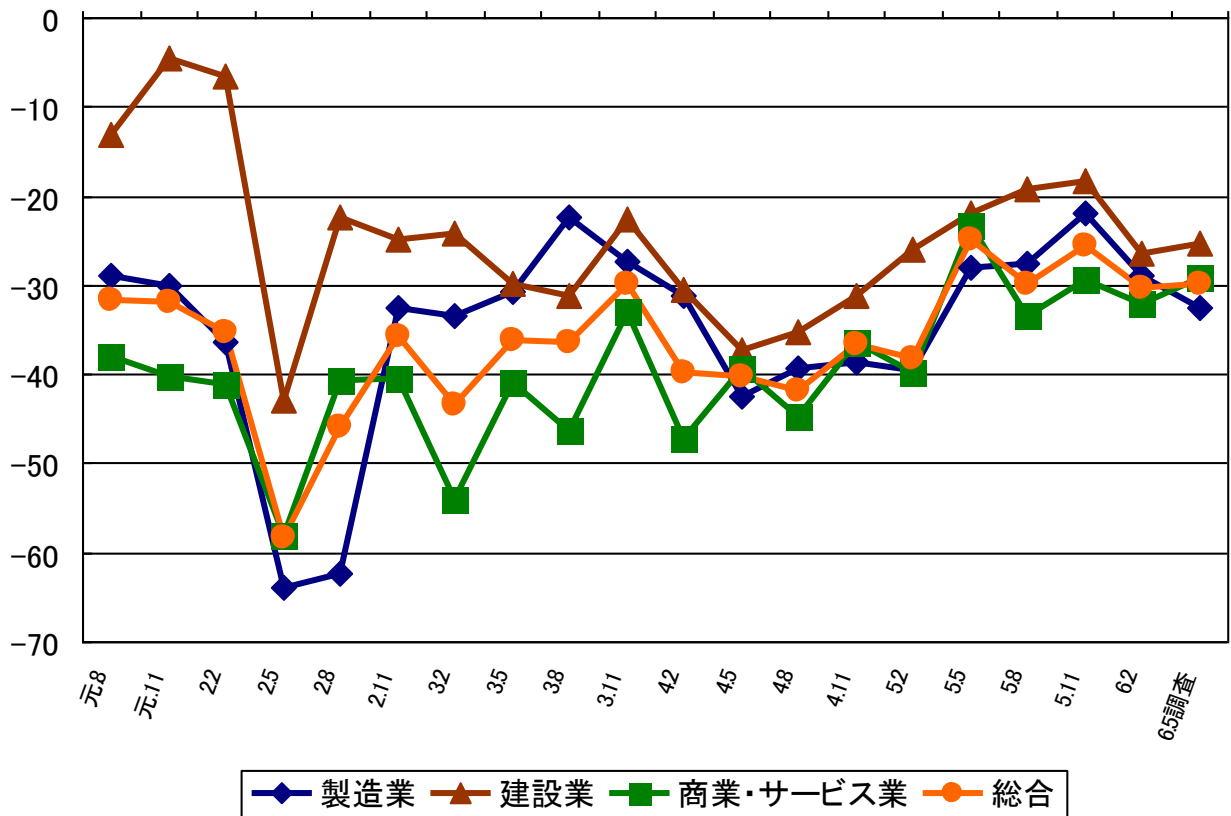
業況DIの推移



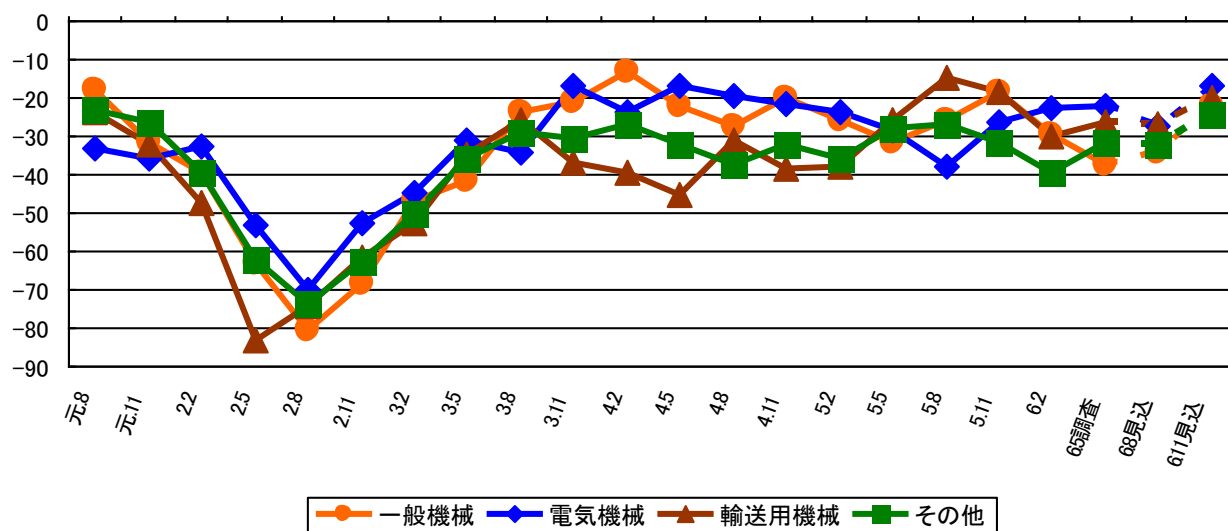
売上DIの推移



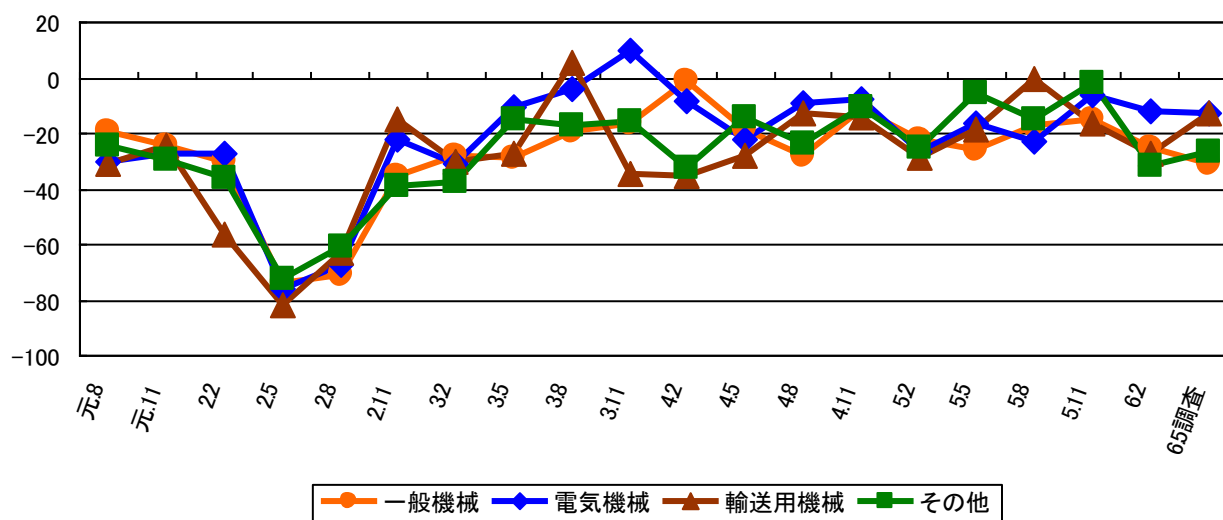
採算DIの推移



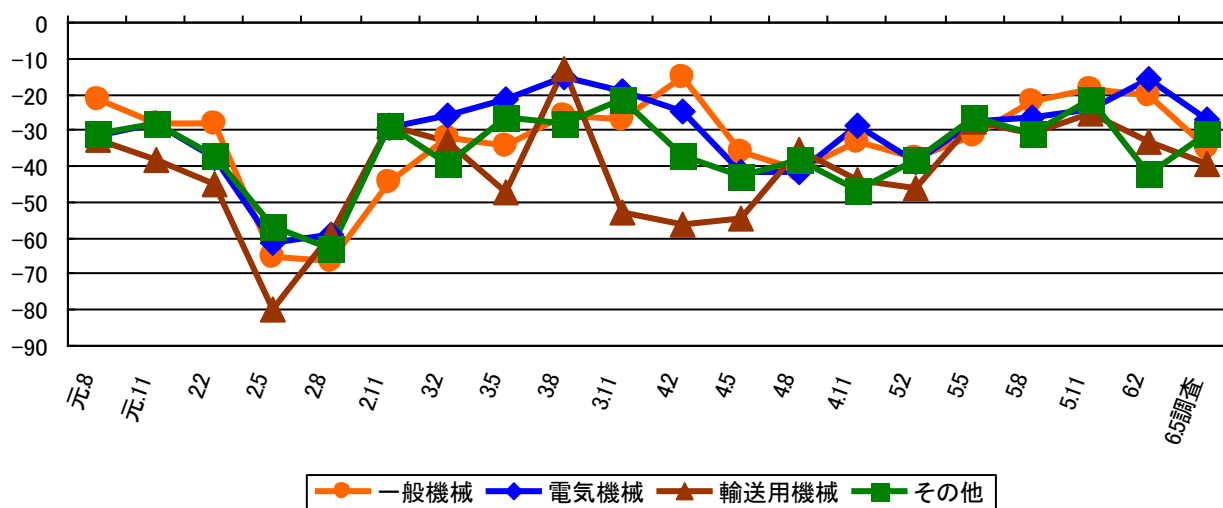
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

「海外工場よりの配当金で、利益を出している。」
「業績の不調要因は、顧客受注減少による。(顧客も受注減少の状況。)」
「昨年後半から続いている不景気が続いているにもかかわらず、物価の高騰が足を引っ張っています。プラス人件費の値上げで大変苦労しています。」
「回復見込みが、どんどん後ヘシフトしており、先が見えない状況。年度内の回復に期待。」
「コロナ禍の影響と半導体不足の余波で、工期が長期化しており、人件費がかかる傾向が見受けられます。」
「依然、中国経済低迷の影響により、受注低調で推移している。」
「設備投資も控えて、物価高支援手当や基本給ベースUPを行っている。仕事のボリュームは減少してしまっているが、人員の確保を重視した。受注単価は少しずつ風向きが変わりつつあり、交渉のテーブルに客先がついてくれるようになった。」
「取引先から価格の見直しの連絡はくるが、海外の低コスト製品と競争の中で、価格上昇のお願いが出来ない。失注する恐れ。」
「関連業界は全体的に停滞感がありますが、生成AIなど一部製品に動きがあり二極化しています。暫くはこの状況が続くものと見ています。」
「地震の影響で減産となり、1月～3月は売上が落ち込んだ。消耗品、電力、燃料等高くなっているが、価格値上げの話にはのってもらえない。他社比較の値下げの話がまだ多い。」
「コロナの影響がやっと抜けたか、という感覚があります。少しずつ受注も上向いていますが、諸物価高騰、円安など、今後の仕入単価への上乗せ、その分の利益減等、今後注視するところです。」
「今後、上半期は増収増益。製品値上げ交渉が成立し、東京オリンピック前の業況回復。今季後半は、流動的。先が読めない。」

<建設業>

「人手不足が目立ってきた。今後の受注活動に影響大である。残業規制による工事進行度が遅れる事が心配である。」
「人手不足の為、売上が立てられない。」
「前期1月～3月、大赤字。4月～6月やっと回復の兆し。人手不足、若手不足、事業継続が課題。」
「従業員の高齢化問題で先行き不安あり。」
「少しずつですが、小工事の受注が出来ている。」
「コロナ明けで設備が増えて来ているが、電線などの納期が問題である。仕事はあるが、材料の入荷に悩んでいる。」
「人員の不足、若手教育が課題です。」
「国からの補助金のおかげで受注に繋がっている。」
「深刻な人材難で、工事依頼はあるものの、人手がいなくて、請け負えない・現場をまわせないことには利益があがらないのが現状で、見通しは悪い。」
「6月以降の引き合いがない。見積り件数も例年より減っている。価格上昇分が適正に価格転嫁できていないので、利益減。適正価格にすると、受注に結び付かない。」
「公共工事が中心のため、毎年1～3月期に売上が集中し、4～6月期は仕事が薄いため、その意味では今期も例年と変わらない。が、入札数の減少は年々悪化していると感じる。人手不足は恒常化している。」

<卸売業>

「コロナ後、リベンジ消費(前期)あり。その反動で前年ダウン。」
「為替がどう動くのか?によって、全て(業況も利益も)変わってくるので、輸入物価が少しでも下がる事を期待します。」
「2024年の残業規制により社員不足。入ってこない。パートは104万円のハードルのために、1人あたりの時間が減っていて、不足です。」
「LED化が進んでいる。(2年後には従来の電球はほぼゼロ。)」
「外食比率やインバウンドの増加で、外食業の売上は、コロナ前より大幅に増えており。当社の売上も増加している。商品価格の値上がりによる売上増も寄与している。」
「他業種に広げて販売活動を行っていますが、どこも状況があまり良くありません。競合他社も似たような状態で、価格を下げ合って、少ないパイを取り合っているのが現状です。利益など出るわけがありません。」
「円安で仕入価格が高くなっているため、利益率が悪くなっている。今後も円安が続くと、物流費、光熱費が値上がりし、より厳しくなっていく。」
「R6年1月～3月と比較すると、年度初めは見積もりが多く、6月以降出した見積もりが確定する様に、後追い営業していく。」

<小売業>

「中小に何かしらの支援対策を期待。原料費の増加、不足が相次いでいる。」
「客の高齢化による不況また、物価高騰による消費者心理の低迷。（購買意欲。）良くなる（業績）事は無いと思います。」
「円安が続けば、インバウンドが好調ですが、その分、日本の方が買わない。6月以降は、暑さも関係してくるので、楽観視は出来そうもありません。」
「来店客数は、そこそこあるのですが、おサイフのヒモが固い。」
「売上にムラがあり、今後のコロナ融資の返済額が増えてくるのが心配。新規ビジネスへの進出を積極的に進める。」
「円安による物価上昇。」
「前期（1～3月）低迷していたEC通販が上向きだが、実店舗の客数が減少傾向。かながわPayのような行政からの販売支援を期待します。」
「小仏トンネル、リニアトンネルで、3年位は良好です。」
「春になり暖かくなりつつあるが、店内まで入ってくる客は、2月、3月と比較して少ない。インバウンド客は、この商店街には全くいない。」
「貴金属材料や真珠製品の凄まじい値上がりもあり、販売価格は総じて上昇しているため売り上げ高も伸びています。但しこのままのペースで値上がりが続くと、お客様の購入予算との隔たりが広がり過ぎて失速すると推測してます。今の段階ではジュエリーは日常品ではなく非日常的な品物なので、値上がりの定点観測がしづらいこともあり、お客様には材料費高騰事情をご理解いただけてるような気がしてます。」

<飲食店>

「インバウンドと円安の影響のためか、外国人の方が多く見受けられます。日本人にとっては、少々単価の張るお料理も「おいしい!!」「安い!!」（お国言葉）と言いながら、召し上がっていかれます。」
「この3か月、売上は良くなっている。学生の修学旅行の復活、一般客の単価が高くなったのが要因と思われる。」
「コロナの不況から脱し、昔のお客様が戻ってきて、客数が安定して増えてきています。」
「パートの時給が上がっているの、働ける時間が限られていて、募集してもなかなか人が集まらない。」
「仕入価格が高くなる影響があるも、経営努力で乗り切る予定。」
「全ての食材の値上がりが酷く、特に食肉の値上がりが厳しく、商品単価の引き上げは客離れに繋がり、上げられない。利益が厳しく、経営者の給料を下げて対応している状態。」
「103万円等の壁をなくさない限り、人手不足は解消しないと思います。」
「飲食店なので先の判断は難しいですが、今後の為替状況や世界情勢によっては、大変な結果になるかも。リーマンショックの二の舞いにならない事を祈ります。」
「業績好調でもコロナ禍の借金の金額が大ききどうにもならない。」
「客数、売上は伸びたが、人件費、物価高、光熱費の上昇等で、利益が上がらない。」

<サービス業>

「顧客の中に、節約意識が強く、時間の縮小あり。厳しいです。」
「身なりにお金をかけている状態ではないようです。」
「顧客の内製化が多くなり、業務が発注されない。」
「人員不足が表面化し、1人1人の社員の負担が増えている。特に高齢の社員は体力的に厳しい様で、これから気温がどんどん上がっていく事を考えると、心配である。」
「4月入社社員が戦力になることにより、雇用状況改善⇒受け入れ増⇒売上増が見込まれる。」
「庶民の生活レベルの高まりが安定し、生活を楽しむ余裕が起きないと、我々の業界は上昇しない。」
「まだ充分とは言えませんが、5月に入ってから売上が回復してきました。今後の数か月～数年で事業の改革（一部すでに着手）を計画しているので、それが功を成すことを期待します。」
「従業員の高齢化により、介護問題、病気の罹患が起き、売上に影響が出ている。業界は、人手不足の状況が続いている。」
「測量業の人手不足（若い人）により、仕事の効率が悪い。解消するために補助金を利用し、設備投資を検討中。」
「廃業に向けて準備中。」
「お酒を飲む機会が減っていて（多分、収入、おこづかいの面で）週末の金・土しか忙しくない。月～木までは、暇である。」
「4月より報酬の改定が行われたが、支給にはタイムラグがあるため、改善には時間を要する。業界全体の人材不足は依然として深刻な状況が続いている。」
「生成AIの普及で良くなるが否かが分かれ目です。あとは動画の普及が追い風になります。」
「サービス内容及び提供方法の変更を展開している。」